

たしかめ

1

名 前

1

もみじのはっぱが紅こうようする。

2

さあ おきろ。き床しやうの じかんだ。

3

はい そく度どで くるまが はしる こうそくどろう路。

4

あめで じめんが いちめん に みずびたし。

5

この ほうこう、進すすめば むこうの やまに 着つく。

たしかめ Ⅰ

5	4	3	2	1
向	面	速	起	葉
この方向、進めば向ここの山に着く。	雨で地面が一面に水びたし。	速い速度で車が走る高速道路。	さあ起きろ。起床 <small>しやう</small> の時間だ。	もみじの葉っぱが紅葉 <small>こう</small> する。

6

しんりよくの みどりの はっぱ、きれいだな。

6

7

かん^{そう}想ぶん、かんじた ことを かけば いい。

7

8

おとう腐^ふは、まめから できている。

8

9

そとで おおきな ものが した。

9

10

くにに より せいかつ の ようすは さまざまだ。

10

10	9	8	7	6
様	物	豆	感	緑
国により生活の様子は様々だ。	外で大きな物音がした。	お豆腐は、豆からできている。	感想文、感じたことを書けばいい。	新緑の緑の葉っぱ、きれいだな。

たしかめ

3

名 前

11	

11 そのし^{こと}事、はやくしあげてかえろうよ。

12	

12 粉^{こな}をねり、うどんづくりのれんしゅうだ。

13	

13 もくようびにしゅうじをならっている。

14	

14 ほんしゅうときゅうしゅうをつなぐ関^{かん}もんトンネル。

15	

15 まちのちゅうおうにひろばがある。

15	14	13	12	11
央	州	習	練	仕
町の中央に広場がある。	本州と九州をつなぐ関門 <small>かん</small> トンネル	木曜日に習字を習っている。	粉 <small>こな</small> を練り、うどん作りの練習だ。	その仕事、早く仕上げて帰ろうよ。

16

16

おう断^{だん}はどうのよこで待^まつ。

17

17

にんげんよりなんばいもちから持^もちの象^{ぞう}。

18

18

ほんじつは、としかんのきゆうかんび。

19

19

だいじなことはよくかんがえて決^きめよう。

20

20

ちずにはいろいろなきごうがある。

20	19	18	17	16
号	事	館	倍	横
地図にはいろんな記号がある。	大事な事はよく考えて決めよう。	本日は、図書館の休館日。	人間より何倍も力持ちの象。	横断歩道の横で待つ。

21

21

しょうした
かみをつかって
リサイクル

22

22

てを挙げて、
じぶんのいけんをいう。

23

23

み覚とは、舌で
かんじるあじのこと。

24

24

かんという
くじだから
かんじという。

25

25

いちねんの
き温の
変化を
ひょうにあらわす。

25	24	23	22	21
表	漢	味	意	使
一年の気温の変化を表に表す。	漢という国の字だから漢字という。	味覚 ^{かく} とは、舌 ^{した} で感 ^{かん} じる味のこと。	手 ^て を挙 ^あ げて、自 ^{みづか} 分の意 ^い 見 ^{けん} を言 ^い う。	使 ^{つか} 用 ^{よう} した紙 ^し を使 ^{つか} ってリサ ^り イ ^い ク ^く ル。

26

26

ちよう査^さして、しらべたことをき録^{ろく}する。

27

27

えんちゅうのかたちをしているでん信^{しん}ばしら。

28

28

この住^{じゅう}しよはとも達^{だち}が住^すんでいるところだ。

29

29

メモをとりながらしゆ材^{じゅうざい}する。

30

30

薬^{やっ}きよくで薬^{くすり}をかう。

30	29	28	27	26
局	取	所	柱	調
薬局で薬を買う。	メモを取りながら取材する。	この住所は友達 ^{だち} が住んでいる所だ。	円柱の形をしている電信柱 ^{しん} 。	調査 ^さ して、調べたことを記録 ^{ろく} する。

たしかめ

7

名 前

31

しんぶんをくばってまわるしんぶんはい達。

2

このいえにすんでいるじゅうにん。

33

全しんが筋にく痛でみ動きでぎず。

34

たいいくは、からだをそだてるじかんだ。

35

しゅ備に付く、まもりの要はキャッチャー。

35	34	33	32	31
守	育	身	住	配
守備 <small>び</small> に付 <small>っ</small> く、守 <small>り</small> の要 <small>かなめ</small> はキャッチャー。	体育は、体 <small>を</small> 育 <small>て</small> る時間だ。	全身 <small>きん</small> が筋肉痛 <small>つう</small> で身動 <small>き</small> きできず。	この家 <small>に</small> 住 <small>ん</small> でいる住人。	新聞を配 <small>って</small> 回 <small>る</small> 新聞配達 <small>たつ</small> 。

たしかめ

8

名 前

36

3 6

たすうけつで きめる。

37

3 7

のっそりと うごく どうぶつ、ナマケモノ。

38

3 8

両ほうの てで 荷もつをもつ。

39

3 9

難^{なん}もんだ。せんせいに とい、やっと わかった。

40

4 0

さくぶん^{さくぶん}に だいめい^{だいめい}をつける。

40	39	38	37	36
題	問	持	動	決
作文に題名をつける。	難問だ。先生に問い、やっと分かった。	両方の手で荷物を持つ。	のっそりと動く動物、ナマケモノ。	多数決で決める。

たしかめ

9

名前

41

41

さゆう ふたつの ぶんぶんに わける。

42

42

ふで箱の 鉛筆を けずって 勉強する。

43

43

昔は きょうとに みやこがあった。

44

44

ひょうざんは うみに 浮かんだ こおりの かたまり。

45

45

すいえいで 得いな およぎは 平およぎ。

45	44	43	42	41
泳	氷	都	筆	部
水泳で得意な泳ぎは平泳ぎ。	氷山は海に浮かんだ氷のかたまり。	昔は京都に都があった。	筆箱の鉛筆をけずって勉強する	左右二つの部分に分ける。

たしかめ

10

名前

46

46

ゆう料^{りよう}が無料^{むりよう}になってあり難^{がた}い。

47

47

へんきんは、借^かりたおかねをかえすこと。

48

48

ひるやすみ、とも達^{たち}とゆう具^ぐであそんだ。

49

49

かいかは、はなのつぼみがひらくこと。

50

50

ぜんりよくを尽^つくしたが、まったく歯^はがたたない。

50	49	48	47	46
全	開	遊	返	有
全力を ^っ 尽くしたが、全 ^く 齒 ^が 立 ^た ない。	開 ^花 とは、花 ^の つぼみ ^が 開 ^く こと。	昼 ^休 み、友 ^だ ちと遊 ^具 で遊 ^ん だ。	返 ^金 は、借 ^か りたお金 ^を 返 ^す こと。	有 ^り 料 ^り が ^り 無 ^り 料 ^り にな ^っ て有 ^り 難 ^か い。

たしかめ

11

名 前

51

51

さあかいし。けつ勝戦しょうせんのはじまりだ。

52

52

そのしごと、ぼくらのかかりも関かんけいするね。

53

53

よのなかのことをしらないせけんしらず。

54

54

しゅう了りようの笛ふえがなったよ、もうおわり。

55

55

にがい薬くすりをくろう勞して飲のむ。ああくるしい。

55	54	53	52	51
苦	終	世	係	始
苦い薬を苦劳 <small>ろう</small> して飲む。ああ苦しい。	終了 <small>りよう</small> の笛が鳴ったよ、もう終わり。	世の中の事を知らない世間知らず。	その仕事、ぼくらの係 <small>かん</small> も関係するね。	さあ開始。決勝戦 <small>せん</small> の始まりだ。

56

56

すいぞくかんでいろいろなさかなをみた。

57

57

ぶんしょうをよくよんでかんがえよう。

58

58

きよくせんは、まがりくねったせんのこと。

59

59

こくばんは、昔はくろいいただった。

60

60

ひん質の良しなものが揃ったおみせ。

60	59	58	57	56
品	板	曲	章	族
品質 <small>しつ</small> の良い品物 <small>よ</small> が揃 <small>そろ</small> ったお店。	黒板は、昔は黒い板だった。	曲線は、曲がりくねった線のこと。	文章をよく読んで考えよう。	水族館でいろんな魚を見た。

61

61

ゆうしよくのよういだ。おさらを並べてね。

62

62

としよいんのしごとはほんの整りだ。

63

63

いりぐちにかりいんがたっている。

64

64

ピアノのはっぴようかいにでる。

65

65

しまにすむひとがひとりもない無じんとう。

65	64	63	62	61
島	発	員	委	皿
島に住む人が一人もない無人島。	ピアノの発表会に出る。	入り口に係員が立っている。	図書委員の仕事は本の整理だ。	夕食の用意だ。お皿を並べ ^{なら} てね。

66

66

ああさむい。つよいかん波^{なみ}がやってきた。

67

67

困^{こま}ったな、そう談^{だん}できる あいてがない。

68

68

必^{ひつ}してゴールをまもった。

69

69

た郎^{ろう}くん、きみの好^すきなたべものなあに？

70

70

やすらかな寝^ねがおをみて あんしんする。

70	69	68	67	66
安	君	死	相	寒
安らかな寝顔を見て安心する。	太郎君、君の好きな食べ物なあに？	必死でゴールを守った。	困ったな、相談できる相手がいない。	ああ寒い。強い寒波がやってきた。

71

71

じ故だ。いそいで 呼ぼう、救きゅうしゃ。

72

72

どう路にかかる おう断ようのはしが ほどうきよう。

73

73

はちじっ歳で エベレストにのぼった とざんか。

74

74

転んで けっ管が きれ、あしから ちが でた。

75

75

もうしでることを しん告という。

75	74	73	72	71
申	血	登	橋	急
申し出ることを申告 <small>こく</small> という。	転んで血管 <small>かん</small> が切れ、足から血が出た。	八十歳 <small>さい</small> でエベレストに登った登山家。	道路にかかる横断 <small>だん</small> 用の橋が歩道橋。	事故 <small>こ</small> だ。急いで呼 <small>よ</small> ぼう、救急車 <small>きゅうしや</small> 。

76

なにを しょうと きみの じゅうだ。

7 6

77

どくしゃかんそうぶんを かく。

7 7

78

こくごの じかんにしを かく。

7 8

79

たいいくかんに ぜんこうが あつまり、おんがくしゅうかい。

7 9

80

つぎは なに？ それは じかいの おたのしみ。

8 0

80	79	78	77	76
次	集	詩	想	由
次は何？それは次回のお楽しみ。	体育館に全校が集まり、音楽集会。	国語の時間に詩を書く。	読書感想文を書く。	何をしようと君の自由だ。

81

あつひはプールでおよぐときもちい。

82

授ぎようでかんじのいみをならう。

83

柿^{かき}のみをたべたのは、じつは僕^{ぼく}だ。

84

こめやや菜^{さい}をつくるしごとがのうぎようだ。

85

いのちがけでしめいを果^はたす。

86

スマホでうつしたはなのしや真^{しん}。

86	85	84	83	82	81
写	命	農	実	業	暑
スマホで写した花の写真。	命がけて使命を果たす。	米や野菜を作る仕事は農業だ。	柿の実を食べたのは、実は僕だ。	授業で漢字の意味を習う。	暑い日はプールで泳ぐと気持ちいい。